

スポーツイベントと持続可能性

学生団体おりがみ 環境チーム/SUSPON Youth部会/千葉大学2年 大後 宇生

スポーツイベントが持続可能性に果たす役割 「聖火リレー×キャンドルナイト」で環境問題に想いを

持続可能な社会と意識向上

世界は、サステナブル(持続可能)な社会を実現するため、動き始めています。そうした社会を実現するためにできることは、いろいろあります。クリーンな技術を駆使した環境に良い製品の開発など技術面からのアプローチがそうですし、地球環境に大きな負荷をかけることを規制するといった制度面からのアプローチもそうです。また、これらと並び重要なアプローチが、世界の1人ひとりが環境に配慮する意識を向上させることです。

世界の人口は現在、約70億人です。1人ひとりができることは小さくても、全員が実行すれば、取り組みは70億倍され、大きな効果となって現れます。逆に、1人ができることは小さいからと、誰も環境に配慮しなかったら、それは70億倍の負荷となって地球にのしかかります。

例えば、日本の国民が全員、ペットボトルの消費量を1本減らすだけで、全体では約1億本のペットボトルを減らせることになりますし、逆に1人が1本多く消費すれば、全体では約1億本増えてしまいます。1

人ひとりの意識を向上させることは、とても重要なことです。

日本を含めた各国の政府は啓発活動に力を入れており、いかにして国民1人ひとりに環境負荷を減らす意識を持ってもらうかに腐心しています。

世界的に注目を集める スポーツイベント

ここで視点をスポーツイベントに移してみましょう。スポーツは世界中で行われており、国によって人気

種目は違いますが、スポーツイベントはたくさんの人の注目を集めます。

世界には、3大スポーツイベントと呼ばれるものがあります。サッカーワールドカップ、ラグビーワールドカップ、そして五輪・パラリンピックです。

3大スポーツイベントの近年のテレビ視聴者数をみると、いずれも世界人口のおよそ半数が観ていると推定されています。これは驚くべき数字です。いかにスポーツイベントが世界中で注目されているかが分かります。



多くの人の注目を浴びるスポーツ

これだけ多くの人を魅了する力を持っているスポーツイベントを啓発活動に活用すれば、普段は環境問題などに関心がない人にも興味を持ってもらえるのではないのでしょうか。

2020キャンドルナイトリレー

筆者が所属する「学生団体おりがみ」での活動を例に、スポーツイベントと持続可能性について考えてみたいと思います。おりがみでは、2020年東京五輪・パラリンピック(東京2020大会)に向けて活動している複数の大学の学生からなる団体で、SUSPON(持続可能なスポーツイベントを実現するNGO/NPOネットワーク)の「Youth 部会」にも所属しています。

おりがみの環境チームでは、「2020キャンドルナイトリレー」という企画を進めています。この企画は、スポーツイベントの「多くの人々の注目を集める力」を活用して、持続可能な社会の実現に貢献しようというものです。

具体的には、東京2020五輪聖火リレー(2020年3月26日に福島県を出発し、121日間かけて47都道府県をめぐる)が行われるのに合わせて、聖火が訪れる各地域でキャンドルナイトを開催します。キャンドルナイトは2001年に米国で行われた運動が起源で、今では、電気を使わずにキャンドルを使って夜を過ごすことによってエネルギー問題を意識することを目的に行われています。

私たちの団体が実施するキャンドルナイトは、キャンドルの灯(ともしび)で夜を過ごすだけでなく、そこに付加価値を付けていきます。

例えば、キャンドルの灯が回り一面に広がった幻想的な空間の中で、「身近な環境問題」や「未来に残した



「学生団体おりがみ」で実施しているキャンドルナイト。身近な環境問題に想いをさせる

い景色」をテーマとした写真展などを行うことにより、身近な環境問題に対する気づきがあったり、未来の地球に想いをはせたりする演出をしようと考えています。

また、廃油でキャンドルをつくることで、環境に配慮しつつ感動を体験するといった演出も考えています。こうして、「五輪・パラリンピック」というスポーツイベントや、「キャンドルナイト」という言葉にひかれてやってきた人たちが、環境問題に興味を持つようになればというのが、私たちの願いです。

このイベントも当初は、ただ「キャンドルナイトをやったら面白そう」という“小さな夢”からスタートしました。しかし、「五輪・パラリンピック」というスポーツイベントが持つ効力はすぐに効果を発揮し始め、1つ、2つと各地の環境団体などがこのイベントへの参加に手を挙げ始めました。いつの間にか、各地域の人たちと「環境を身近に」という共通の想いを持ち、小さな夢は大きな夢へと変わっていきました。

キャンドルナイトは現在、福井県と宮城県での開催が決定し、大きな

夢が実現に向けて一歩ずつ進んでいます。私たちの「環境を身近に」という想いは、各地域のキャンドルナイトに訪れた人たちに届くと信じています。

スポーツイベントで意識向上

世界3大スポーツイベントを筆頭に、スポーツイベントは大きな注目を集めます。注目度の大きさは、単にスポーツ観戦で盛り上がるだけでなく、上手く活用すれば、大きな変化を生み出す可能性を持っています。

私たちが五輪・パラリンピックを活用して持続可能な社会実現に向けた意識向上を狙っているように、別のスポーツイベントでも意識の向上ができるかもしれません。

ラグビーワールドカップが閉幕した今、次に日本にやってくる大きなスポーツイベントは、東京2020大会です。多くの人にメッセージを届ける絶好の機会が、すぐそこまで迫っています。これからの数カ月間、多くの人に「環境を身近に」という想いを届ける重要な期間だと考えています。E